

第 32 回廃炉・汚染水対策現地調整会議の概要

1. 日程

日時:平成28年4月26日(火) 15:50-17:50

場所:ホテルハマツ 3階「中央の間」

2. メンバー

政府: (議長):高木原子力災害現地対策本部長(経済産業副大臣)

復興庁:白井次長(福島復興局)

農林水産省水産庁:藤本水産研究専門官

国土交通省:河川環境課 田中課長補佐

環境省:二村水環境課長

廃炉・汚染水対策チーム:田中事務局長補佐、尾澤事務局長補佐、
平井事務局長補佐、秦対策官、柿崎企画官、
近藤企画官

廃炉・汚染水対策現地事務所:生越所長、木野参事官、本田調整官、
小野対策官、朝日対策官、中村対策官

原子力損害賠償・廃炉等支援機構:松永現地事務所長、永井審議役

東京電力:増田プレジデント、有馬バイスプレジデント、

磯貝福島第一原子力発電所プロジェクト統括管理センター所長

福島県(オブザーバー):五十嵐政策監、菅野原子力安全対策課長

規制当局 原子力規制庁:山田審議官、持丸総括調整官

厚生労働省 福島労働局:久富労働基準部長

3. 結果概要

(1) 議長冒頭挨拶

○本日もお忙しいところ、お集まりいただき感謝申し上げます。

○先週、各首長等に参加いただき福島評議会を開催しました。その時にも申し上げましたが、4月10日、11日の2日間にわたり、資源エネルギー庁と原子力損害賠償・廃炉等支援機構の共催により、第1回福島第一廃炉国際フォーラムを開催しました。国内外の関係機関や専門家、地元関係者など、15ヶ国から、のべ641人に参加頂き、福島第一原発の最新の状況や、廃炉に関する技術的な検討内容にとどまらず、地元とのコミュニケーション、特に双方向の対話が重要であることが確認されました。

○今回のフォーラムで学んだことを活かしつつ、今年度も中長期ロードマップの目標を始め、一つ一つの課題を着実に達成していきたいと考えております。特に、トリチウム水の長期的取扱いに関しましては、先日、専門家会合において各選択肢の試算結果が示されたところです。今後の検討では、関係者とも丁寧に議論を進めていきます。

○また、汚染水対策に関しては、3月末から陸側遮水壁の凍結を開始し、順調な進捗を示すデータが収集されておりますので、詳細な内容について、今日は報告を受けたいと思います。

○一方で、高温焼却炉建屋水位の運転上の制限逸脱やタンクエリア付近の移送配管から堰外への漏えいなど、いくつかのトラブルが発生しています。早期に発見し迅速に対応することはもちろんですが、一つ一つの事象に対して丁寧に原因分析を行って、確実に再発防止することが最も重要であります。原因と対策についても報告を受けたいと思います。

○この他にも、タンク建設の進捗状況、3号機原子炉建屋オペレーティングフロア除染・遮蔽工事の状況、さらには固体廃棄物の保管管理計画などについて報告を受けたいと思いますので、本日も皆様の活発な御意見、議論をお願いします。

(2) 会議概要 (主な指摘事項)

議題 3

<資料 1 - 3 >

- ▶ コミュニケーションミスによるトラブルの対策として、ミーティングを行うとしているが、これでミスを防げるのか。工事に係る東京電力からの指示内容について、指示通りに工事が進められていることを東京電力が確認していなかったことも原因と思われる。ミーティングという形式にこだわらず、東京電力による確認をしっかりと行う体制・意気込みを確立して欲しい。
- ▶ 本工事は作業許可証なしに進められていた。計画的な廃止措置に向けた工事について、作業許可証なしに工事を進めることは適切ではない。工事に係るルールを徹底すること。

議題 4

<資料 1 - 4 >

- ▶ 1つ1つの担当が縦割りになっており、プロジェクトチームによる管理ができていないのではないか。
- ▶ LCO対象設備では、水位監視は常時行うものと思う。監視をしっかりと行うこと。

議題 8, 9

<資料 2>

- ▶ 3号機のオペフロの線量調査については、田中委員長指示のもと、規制委・規制庁としてもしっかりと調査していく。調査結果については、監視評価検討会の場で公表を続けていく。
- ▶ 陸側遮水壁の山側、海側だけでなく、北側側面についても、温度結果は公表していく方が良い。
- ▶ 1号機カバー解体について、現在撒水設備の設置を行っており、9月から壁パネル解体に着手していくと思うが、本件については、3号機ダスト飛散を発端として、地元住民や農協の方々など非常に関心を持っているもの。現在の取組状況や今後の流れについて、映像などを用いて分かりやすくまとめ、解体がどのように行われるのかを農協の方々等に説明した方が良い。
- ▶ 1号機カバー解体については、地元住民が不安を持っている。しっかりと対策を講じて進めて欲しい。
- ▶ 各汚染水対策、凍土壁の進捗については、福島県監視協も監視を続けている。効果が現れるよう対策を進めて欲しい。
- ▶ トリチウム水の海洋放出については、漁協からも意見をいただいている。分離技術の開発をあきらめずに取り組んでいただくとともに、方針については地元に対して丁寧に説明を行った上で決定して欲しい。
- ▶ 先般のトリチウムタスクフォースでは、トリチウム分離技術について現時点ではすぐに実用化できるものはないというのが専門家の評価。

議題 10

<その他>

- ▶ 労働基準関係法令違反については、少なくなっているものの、50%を超える状況にあり、違反が半数を超える状況といったマイナスの報道をされてしまう。これを改善するためには、違反0を目指すしかないと考えており、これに向けては、まずは東京電力において、重層した下請けの構造をしっかりと把握することが重要。

(3) 次回以降の日程

○次回は5月開催。詳細の日程は決定次第、事務方より連絡。

(以上)